

下記の書類について検査時に提出してください。

1. 「材料搬入の報告及び材料の検査一覧表：様式－1」（工事全般）

- 異なる種類の材料搬入のつど、記入してください。

《記入する材料の目安》

- 請負額に応じて下表を目安に、主要な材料について、記入してください。表中にある「設計書1行の金額」とは、工事費内訳明細書における消費税、共通費を含まない直接工事費のことであります。
- なお、躯体工事（あと施工アンカー等の関連工事を含む）は、下表に係らず記入してください。

請負額	「設計書1行の金額」が下記の場合に記載（※）
～1億円以下	10万円以上
1億円超～2億円以下	20万円以上
2億円超～	50万円以上

（※）「記入する材料の目安」は記入の負担を減らしつつ、当該工事における主要な材料を明らかにすることが目的です。

Q1 設計書1行の金額に該当する材料は、すべて記入しなければならないのですか。

A1 例：アルミ建具について、数多く該当する場合、代表的なものを記入すればよく、すべての記入は必要ありません。

例：アルミ笠木について、直線部は記入し、コーナー部など二次的な材料の記入は必要ありません。

例：木工事について、杉板、合板などは記入し、幅木、見切縁、枠など細かい材料の記入は必要ありません。

Q2 Q1とは逆に、設計書1行の金額に達しない材料で、主要なものと考えられる場合、記入した方がいいのですか。

A2 負担軽減の観点から、記入の必要はありません。

- 「品名等」および「規格・形状等」の欄は、設計書・図面・仕様書から転記し、「品名」の欄は現場に搬入した材料の商品名を記入してください。
- 現場に搬入した材料が、設計書等に求められている規格等に合っていることを証明する資料（ミルシート・カタログ・出荷証明書・写真等）を備考欄に記入してください。

2. 「鉄筋ガス圧接部試験結果一覧表：様式－2」（鉄筋工事）

- 1組の作業班が1日に行った圧接箇所を1ロットとして、ロットごとに試験結果を記入してください。
- ガス圧接作業者のガス圧接技量資格の欄は、1種～4種の別を記入してください。
- 検査者の欄は、外観検査または超音波探傷試験を行った方を記入してください。

3. 「コンクリート強度試験結果一覧表：様式－3」（コンクリート工事）

- コンクリート強度試験結果欄は、打設数量が150m³を超える時には、2行以上を使用して記入してください。

4. 「材料の使用量一覧表：様式－4」（防水工事、塗装工事、吹付工事、内・外壁改修工事等）

- 使用量の管理が必要なものについては、必要量の計算式・算定値と実際の使用量（出荷証明書）の比較表を作成してください。ただし、作業工程の全ての材料が1缶未満の場合は、記入の必要はありません。
- 様式－4に記載の材料については、様式－1の記入の必要はありません。

（例）

工事項目および工法名	作業工程および作業工程ごとの材料名	材 料 名（ 商 品 名 ）	塗布面積×単位面積の必要量÷1缶の量＝計算上必要缶数	現場搬入数量	持ち帰り数量	実際使用数量	出荷証明数量	備 考
アスファルトA-1工法	1	アスファルトプライマー塗	三層アスファルトプライマー	322m ² ×0.2kg/m ² ÷15.5kg/缶=4.2缶	5缶	0.3缶	4.7缶	5缶
	2・5	アスファルトルーフィング	三層アスファルトルーフィング	322m ² ×2÷14m ² /巻=46巻	50巻	3巻	47巻	47巻
	3・4	ストレッチルーフィング	三層ハイスター	(322×2+37)m ² ÷14m ² /巻=48.6巻	54巻	4巻	50巻	50巻
		アスファルト	アスタイトR	322m ² ×6kg/m ² ÷25kg/袋=77.3袋	83袋	2袋	81袋	81袋
葺材仕上塗	2～3 内装断熱材	シカリソ	136m ² ×1.7kg/m ² ÷25kg/缶=9.3缶	10缶	0.3缶	9.7缶	10缶	

5. その他必要な書類

- コンクリート出来形寸法計測表（設計値（ふかし寸法を含む）と測定値を記載の上、その差を記載）
- 建方精度測定図（鉄骨建方および木造建方について、X・Y方向の建方精度を記載）
（上記以外の書類について、提出を求める場合があります。）